

令和7年度石教研国語(小)部会

# 研究ガイド

令和7年6月発行 編集・文責:部会研究員 佐藤(江別市立江別太小)

第29期は研究主題を、「資質・能力を育成する言語活動の創造」とし、「話すこと・聞くこと」領域における研究を進めました。授業者をはじめとし、各サークルの多彩なアイデアを生かして授業研究を進め、「教える授業」から「学び合う授業」への転換が見られました。また、ICTを効果的に活用した実践も数多くあり、言語活動を充実させるためのツールとして機能していたと感じます。

第30期となる今年度は、教科書の改編に伴い、まだ石教研国語(小)部会として研究が進んでいない「読むこと」領域の「文学的文章教材」に焦点を当てた研究となります。第29期に培った言語活動や学習計画の工夫を生かしながら、今年度の研究を進めていければと考えています。(詳細は、「はまなすNo.2」をご覧ください)

以下に指導案形式を提示いたします。各サークルでの研究協議にご活用ください。

## (参考)

### 令和7年度の研究について

#### I 研究主題

生き生きと学びながら資質・能力を身に付けられる国語科授業の創造  
～「読むこと」教材における言語活動や学習計画の工夫を通して～

#### II 研究仮説

言語活動や学習計画を工夫し、個別最適で協働的な学びを通して、国語科における資質・能力が身に付くだろう。

#### III 研究領域

「読むこと」領域の「文学的文章」における「精査・解釈」「考えの形成」の場面

#### IV 研究の柱

- (1) 児童にとって魅力的な言語活動の設定の工夫
- (2) 「精査・解釈」「考えの形成」の場面における「個別最適な学び」の工夫

#### V 研究方法

- (1) 令和7～8年度の2カ年計画で行う。
- (2) 中心サークルを設け、石教研第二次研究協議会において授業提言を行う。
- (3) 各市町村サークルは、主題の解明を図るために、部会研究を進める。
- (4) 実技理論研修会を開催する。

# 1. 指導案の統一形式

※「統一形式」には、記載すべき項目の基準を示しています。各サークルにおいて、必要に応じて項目を加除修正し、より良い指導案作成に取り組んでください。

## 第〇学年 国語科学習指導案

作成者 〇〇小 〇〇〇

1. 単元名「〇〇〇〇」 教材名「〇 〇 〇 〇」

2. 単元の目標

目標：「主たる目標」：学習全体を見通して、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」について示して下さい。

3. 言語活動

言語活動：指導書より

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領〔知識・技能〕の内容を参考に記入してください。	学習指導要領〔思考・判断・表現〕の内容（読むことの指導）を参考に記入してください。	子どもたちの主体的に取り組む姿を観察できる評価規準を考えてください。

5. 児童の実態

6. 指導する学習内容について

- (1) 教材について
  - (2) 学習内容
  - (3) 個別最適で協働的な学び
- ※今年度は個別最適な学びが重点

- (1) 教材のねらい、特徴などを指導書を参考に記載する。
- (2) 学習全体を見通して、指導書や、「はまなすNO.1」の「IV研究方法」の表にある、「言語活動例」を参考にしながら記入する。
- (3) 単元の中で「個別最適で協働的な学び」をどのように位置づけるのかを記入する。

7. 単元の指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
		★印で「個別最適」◇「協働的な学び」を明記。
1	「はまなすNo.1」第30期研究計画で説明した「個別最適な学び」とは児童が主体的に学習課題を設定したり、学習が最適となるように調節したりして自律的に学ぶことを意識した学習活動を★印で記載する。	★個別最適
2		◇協働的
3		
4		
5		★個別最適

8. 本時について

- (1) 本時の目標
- (2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入			
展開			
まとめ			

(3) 板書計画

9. 資料～ワークシートなど

## 2. 指導事例①

※上記の形式を踏まえ、ここでは、4年生の指導案を例として示します。

# 第4学年 国語科学習指導案

作成者 ○ ○ ○ ○

1. 単元名 「気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう」  
教材名 「ごんぎつね」

指導事項配列表にある「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿った目標を設定する。

### 2. 単元の目標

- (1) 言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知)
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて想像し、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思)
- (3) 進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想を持ち、物語の結末について感想を書くことができる。(学)

3. 言語活動 ・物語の結末についての感想を書く。

### 4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	・進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。

### 5. 児童の実態

- ・(学力、意欲面など、全般的な実態と、国語科、「読むこと」領域の実態とに分けて記載。また、身につけさせたい力を併せて記述する。)

### 6. 指導する学習内容について

#### (1) 教材について

- ・場面が明確に分かれており、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを捉えやすい構成になっている。多くの場面は「ごん」の視点で書かれている。そのため「ごん」の気持ちやその変化が捉えやすく、児童は思いにより添いながら読むことができる。また、「情景」という用語が初めて出てくるので、情景描写からも登場人物の気持ちと結びつけ、迫っていきたい。

#### (2) 学習内容

- ・題名やリード分から、物語について想像を広げ、全文通読後に自分の考えた「問い」を交流し学習の見通しをもつ。
- ・「ごん」の人物像を捉え、「ごん」の行動について叙述をもとに、気持ちを想像する。
- ・情景や場面の様子から登場人物の気持ちが表れている表現を見つける。

- ・登場人物の気持ちの変化を書き留めておき、物語の結末についてまとめ、友達と伝え合い、考えを広げたり深めたりする。

(3) 個別最適で協働的な学び

★個別最適な学び

- ・今回出てくる「情景描写」について全体で学習をした後、「行動」「情景」「様子」など「ごん」の気持ちを想像する活動方法を選択する。
- ・言語活動につながるよう、「ごん」の行動から気持ちの変化を想像し、読み取る際に「疑問に思ったこと」「共感できること」「知りたいこと」「気になったこと」を選択し、追究していく。

今年度の重点である「個別最適な学び」について書く。  
この単元を通して資質・能力を身に付けるためにどのような「個別最適な学び」を取り入れるかを記載する。

7. 単元の指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1	・題名やリード文から物語を想像したり「問い」をもったりすることができる。	・学習の見通しをもつ。 ・「ごん」について問いをもち、学習計画を立てる。 ★個別最適
2	・「ごん」がどんな人物像かを読み取ることができる。	・叙述から「ごん」の人物像を見つける。 ◇協働的
3	・情景描写について理解する。	・「言葉の分類をしよう」で物やこと、動き、様子を表す言葉を確認し、本文から探す。 ◇協働的
4 (本時)	・1場面～3場面で「情景」「行動」「様子や会話」から「ごん」の気持ちを想像することができる。	・「ごん」の気持ちが表れているところを見つける。叙述に基づいて気持ちを想像する。 ★個別最適
5	・1場面～3場面の毎に題名を考える。	・題名をグループで考える。 ◇協働的
6	・4場面～5場面で様子や会話から人物像することができる。	・表れているところを 気持ちを想像す ★個別最適
7	・4場面～5場面の読み取りから、場面毎に題名を考える。	・前時までの読み取りから、題名をグループで考える。 ◇協働的
8	・6場面で視点が変わったことを捉え「情景」「行動」「様子や会話」から「ごん」の気持ちを想像することができる。	・「ごん」の気持ちが表れているところを兵十の視点から情景と気持の関係を考え、そこから想像を膨らませる。 ★個別最適◇協働的
9	・6場面の読み取りから、場面の題名を考える。	・前時までの読み取りから、題名をグループで考える。 ◇協働的
10	・全体を通して「ごん」「兵十」の心情の変化を捉えることができる。	・「ごん」の立場、「兵十」の立場を整理して、変化を読み取る。 ★個別最適◇協働的
11	・結末について感想をまとめることができる。	・今まで、書いてきた「疑問」「共感」「知りたい」「気になる」ことを活用し、立場を明確にして書く。 ★個別最適
12	・感想を読み合い、新たな視点を加えたり、見直したりすることができる。	・友達と伝え合い、書き直したり考えを追加したりする。 ◇協働的

指導計画では、授業の具体的なイメージをもてるように「個別最適な学び」「協働的な学び」について記載する。

8. 本時について

(1) 本時の目標

- ・ 叙述から「ごん」の気持ちを想像することができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入	<p>1 前時までの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もの、こと、動き、様子、情景から気持ちを想像できることを確認する。</li> <li>・ 「ごん」の人物像の確認する。</li> </ul> <p>2 学習課題の確認</p>	<p>○ごんの人物像を確認する。</p>	<p>○前時までの学習を掲示する。</p>
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>② 1～3場面の「ごん」の気持ちを想像しよう。</p> </div>			
展開	<p>3 「ごん」の気持ちを想像する。 〈1場面〉</p> <p><b>情景</b>：空はからっと晴れていた <b>行動</b>：ぴよいと草の中から飛びだして＝いたずらがしたい あなの外の草の葉の上にのせた <b>様子・会話</b>：ちょいといたずらしたくなった。 ＝ちょっとした軽い気持ちだった いたずらがしたかっただけ。</p>	<p>○「情景」「行動」「様子や会話」について一緒に行い、スタートを揃える。1場面で行う。</p>	<p>★行動、情景、様子や会話から気持ちを想像しやすい方法を選択できるようにする。</p>
		<p>「精査・解釈」「考えの形成」の場面における「個別最適な学び」の工夫や方法を具体的に明記する。 *この場合はごんの気持ちを想像するためのアイテムを提示</p>	
	<p>4 1～3場面までを確認し、疑問に思うことや、共感できること、知りたいことや、気になることなどを書き、交流する。</p> <p>5 同じ視点グループで、1～3場面の題名を考え、発表する。</p>	<p>○視点による相違点が生じてもよしとするが、「ごん」の視点からずれないようにする。</p>	<p>★「疑問」「共感」「知りたい」「気になる」のどのカードで書いてもよい。 *根拠となることを書くようにさせる。</p>
まとめ	<p>6 本時の振り返り</p>		
<div style="border: 1px solid red; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>③ ひとりぼっちの小ぎつね「ごん」は、軽い気持ちでいたずらしたら、兵十に対してひどいことをしてしまい後悔した。自分にできるつぐないをはじめ、兵十におわびをし始めた。ひとりぼっちのさみしさを分かち合いたい。</p> </div>			

(3) 板書計画 (省略)

9. 資料～ワークシートなど (省略)

指導計画、本時の目標や内容によっては必ずしもまとめとまらないこともあり得る。

## 2. 指導事例②

# 第2学年 国語科学習指導案

作成者 ○ ○ ○ ○

1. 単元名「自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう」  
教材名「お手紙」

2. 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知)
- (2) 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つことができる。(思)
- (3) 文章の内容と自分の体験から「自分だったら」と、想像を広げながら登場人物に手紙を書くことができる。(学)

指導事項配列表にある「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿った目標を設定する。

3. 言語活動 ・物語を読み、登場人物に向けて手紙を書く。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 ・文の中における主語と述語の関係に気づいている。	・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。

5. 児童の実態

- ・(学力、意欲面など、全般的な実態と、国語科、「読むこと」領域の実態とに分けて記載。また、身につけさせたい力を併せて記述する。)

6. 指導する学習内容・評価事項について

(1) 教材について

- ・本教材には、友達の不幸せをいっしょに悲しむ、やさしい「かえるくん」と、手紙なんて来ないと悲しみ、いじけている「がまくん」の間の心のつながりを描いた作品である。特別な事件が起こるわけでもなく、4日遅れの、しかも内容の分かった「お手紙」を仲良く待ち続ける二人。友達どうしの心のつながりに共感をもって読み取らせることで、自分と二人を比べて読むという活動につなげたい。

(2) 学習内容

- ・登場人物がしたことを表す言葉に着目して様子を思い浮かべながら読む。
- ・自分と登場人物を比べて読むという読み方を体験して、感想の持ち方を習得させる。
- ・書く活動を通して、自分が感じたことや考えたことを、明確にする。

(3) 個別最適で協働的な学び

★個別最適な学び

- ・物語のキーアイテムである「お手紙」を書くという言語活動は、児童の書いてみたいという意欲を喚起するものである。誰に、どんなことを、どのような言葉を使って表現するのか、自分で選択できるようにいくつかの選択肢を与える。
- ・自分だったら何を言うか、どう思うかについて考えさせる際に、一人で考える、ヒントをもとに一人で考える、友達と考えるなど、学習形態を工夫して考えさせる。

7. 単元の指導計画

時数	目 標	学 習 内 容
1	・教科書の挿絵、題名、リード文から、物語の内容を想像することができる。	・学習の見通しをもつ。 ・自分が手紙を書くなら、誰にどんな手紙を書くか考える ★個別最適
2	・お話を読んで、「自分だったらこうするだろうな。」と思うことについて考えることができる。	・範読を聞き、自分ならどうするかについて考え、伝え合う。 ◇協働的な学び
3 4 5	・場面の移り変わりや、登場人物の会話など、内容の大体を捉えることができる。	・場面ごとに、それぞれの会話が誰の言葉かを確認する。 ・場面ごとに、登場人物の行動や様子を言葉や挿絵を手がかりに捉える。
6 本時	・叙述から、「かえるくん」と「がまくん」の心情を捉えることができる。	・「かえるくん」がなんども窓から外を見たわけを、かえるくん日記を書く活動を通して心情に迫る。 ★個別最適◇協働的な学び
7		・「がまくん」は、どんな気持ちで「ああ。」「いいお手紙だ。」と言ったのかについて、がまくん日記を書く活動を通して心情に迫る。 ★個別最適◇協働的な学び
8		・手紙を待っている「がまくん」「かえるくん」は、どんなことを考えていたかを日記を書く活動を通して心情に迫る。 ★個別最適◇協働的な学び
9 10 11	・登場人物と自分とを比較し、立場を変えて手紙を書くことができる。	・自分だったら、何をしたり、何を言ったりするかを考える。 ・自分だったら、どう思うか考える。 ・「がまくん」と「かえるくん」のどちらに手紙を書くかを選び、手紙で気持ちを伝える。 ★個別最適
12	・学習のまとめとして、全体で感想交流を行う。	・友達の感想を聞き、自分の考えを広げたり深めたりする。 ◇協働的な学び

8. 本時について

(1) 本時の目標

叙述から、「かえるくん」と「がまくん」の心情を捉えることができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入	1 前時までの確認 ・かえるくんとがまくんの会話、挿絵から考えたことについて確かめる。 2. 学習課題の確認	○「誰が」「どこで」「何をしたのか」「どんな様子なのか」について考えさせる。	○表に整理したものを児童に見せる。
	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;">                     ④ 「かえるくん」がなんどもまどから外をみたわけを考えよう。                 </div>		
展開	3. 音読する P.20からP.22 まで読めばいいことを確かめ音読する。  4. 「かえるくん」が何回外を見たのか確かめる。(3回) ・見ましたP.20 L1 ・のぞきましたP.21 L1 ・のぞきましたP.22 L1  5. 何回も外を見た「かえるくん」の気持ちを考える。 ・「かたつむりくん」が「すぐやるぜ」と言ったのになかなか来ないから。 ・「かえるくん」になりきって様子を演じてみる。	○どこを読めばいいか児童に聞いて教科書を開く。 ○誰の言葉かについて、確かめながら読む。(役割読み)  ○見たことがわかる文章にサイドラインを引かせ、ふき出しにセリフを書かせる。  ○どうして何回も外を見たのえさせる  ○3回はすべて同じ気持ちだかについて考えさせる。	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     3種類のワークシートを準備する。穴埋め形式・書き出しのある文・自由に記述の中から選択して書かせる。                 </div> ★ふき出しにセリフを書く活動を通して、心情にせまる。「かえるくん日記」につなげる。  <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;">                     今日の日記はどんな表情をしているのか、喜怒哀楽の表情を準備し、選択させる。日記が書くことができない児童には、表情から心情にせまるよう工夫する。                 </div>
まとめ	6. 手紙を出したことを言ってしまった「かえるくん」の気持ちを考える。  7. 「かえるくん日記」を交流する。	○どうして手紙を出したことを言ってしまったのかについて考えさせた後に「かえるくん日記」を書かせる。  ○「かえるくん日記」を読み合い自分の考えと友達のを比較させる。	★「かえるくん日記」を書く活動を通して課題を解決する。  ★対話を通して考えを広げたり深めたりする。
	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;">                     ⑤ なんども外を見たのは、早く「がまくん」をよろこばせたいという気持ちが、だんだん強くなったから。                 </div>		
	8. 次時の見通しを持つ。	○次の時間は「がまくん」が言ったことについて考えることを予告する。	

(3) 板書計画 (省略)

9. 資料～ワークシートなど (省略)

以上が、指導案形式のガイドラインです。これをもとに各サークルで検討を重ね、実践内容にふさわしい形式に修正していただければと思います。 【文責：研究員 佐藤 優佳(江別市立江別太小)】